



編集後記, 次号原稿募集

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 住友, 陽文 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/12857

編集後記

『人間社会学研究集録』の第8号をお届けします。

今年度も多くの投稿があり、ご覧の通り10本の論文が掲載されました。投稿のエントリーをしながら投稿を断念されたかた、投稿をしたけれども惜しくも採用されなかったかた、次回を期して、ぜひ良い論文を投稿してきて下さい。

思い返すと、私が1番最初に論文を投稿したのは大学院博士前期課程の2年目の時でした。修士論文を書き上げる前に学内の紀要に投稿したのです。ほとんど査読のない媒体でしたので、掲載してもらおうことができましたが、1度書いてみることで、江湖に向かって自分の研究結果を発表することへの小さな恐怖心は消えたと思います。

その後修士論文を手直したものを学会誌に投稿しました。とても審査の厳しい学会で、最初の審査結果は見事に「不掲載」でした。審査結果に何のコメントも付されていませんでした。要するに箸にも棒にもかからない論文だったということだったのです。そこで私は、同じ素材のまま、切り口を変えて論文全体を大幅改稿して投稿しなおしたのです。大幅改稿の期間は1か月ほどだったのですが、査読者を見返してやろうと思ったせいもあり、とても集中することができたのを覚えています。すると、「ここと、ここと、ここを修正すれば掲載する」という審査結果をもらいました。おそらく時間をかけていたら、かえってできなかったと思います。結局、最初の投稿から数えて3度目の投稿でようやく学会誌に自分の論文を掲載してもらえることになったのです。

私はその後その同じ学会の編集委員を3年間務めることになりました。数年ほど前のことです。そこで感じたことは、1度投稿して「不掲載」の結果をもらったあと簡単に諦めてしまう人が少なくないということでした。編集する側は「不掲載」にした論文でも、よくなって再投稿されてくるのを密かに待っているものです。簡単に諦めないで2度でも3度でも再投稿するとなんとかなるはずですよ。このたび『人間社会学研究集録』に掲載された人は、とくに自信がついたと思います。今度はぜひ全国学会あたりの雑誌にでも投稿してみてください。

最後になりましたが、査読やネイティブチェックなどの編集作業に関わったすべてのかたに、この場をお借りして感謝申し上げます。

編集委員を代表して住友陽文（人間科学専攻）

『人間社会学研究集録』第9号ご投稿のお願い

編集委員

人間科学専攻 住友陽文

(sumitomo@hs.osakafu-u.ac.jp)

『人間社会学研究集録』は大学院生による論文を主とする雑誌で、研究科によって印刷・刊行されます。

については、下記の要領で原稿を募集いたします。投稿をお待ちしております。また、指導教員の諸先生におかれましては、該当する院生や修了者にこのむね周知させ、原稿をご推薦くださいますよう、お願い申し上げます。詳細は別紙の執筆要領をご覧ください。

記

- 投稿資格** 大阪府立大学人間社会学研究科大学院生・研究生・修了者および所属教員（人間文化学研究科などの大阪府立大学・大阪女子大学の旧大学院生・修了者も含む）。大学院博士前期課程の院生の投稿も可能ですが、執筆中の修士論文は対象外です。
- 投稿規定** 配布されるテンプレートファイルを利用して20頁を目安とします。枚数を超過した場合、削除をお願いする場合があります。投稿していただく原稿は、完成原稿とし、校正段階での手直しはできません。
- 申込締切** 2013年7月26日（編集委員へメールで申し込んで下さい。）
- 提出期限** 2013年9月8日（原稿提出の締切は厳守です。）
- 提出先** 投稿申込み、原稿提出とも、各専攻の編集委員まで（電子メールに添付して下さい。）
- 刊行予定** 2014年3月末（2014年1月上旬までに審査済みの最終原稿が提出された論文を掲載対象とします。）

電子メールは便利ですが、到着しない場合もあります。

72時間以内に編集委員から返信がない場合は必ず確認して下さい。